

あきた子ども・若者プラン策定部会における主な意見

第1回策定部会（8月27日）における意見

| No. | 発言要旨 | 掲載ページ |
|-----|--|-------|
| 1 | ネットトラブル被害に遭った児童・生徒の割合は目標どおり低く抑えられているという記載があるが、現場の感覚としては、非常に増えているように感じている。情報モラル教育をより強く前面に出してほしい。 | 5 |
| 2 | オンライン授業が進んでいるが、機器がない家庭や、wi-fi環境が整っていない家庭も多くある。全ての児童生徒が使用できるような環境を整えてほしい。 | 7 |
| 3 | 女性のキャリアを継続することができるかどうかは、子どもが生まれて半年から1年が重要だと思う。育児休業を取れる会社であれば良いが、女性のキャリアを退職という形でリセットされないような支援も大切。 | 9 |
| 4 | 発達障害といっても、様々なタイプの障害がある。それについて一般家庭の理解が足りない部分があると思うので、理解の底上げを図るような取組をお願いする。 | 12 |
| 5 | 子どもたちは地域の良さや秋田県の良さを理解しているが、これから必要なものは、自分の手で何とかしたい、と思う気持ちの醸成なのではないか。 | 15 |
| 6 | ふるさと教育は大変重要だとは思いますが、行き過ぎると思想良心の自由の侵害になりかねない恐れもあるので、価値観を押し付けることがないように留意してほしい。 | 15～16 |
| 7 | 秋田県内では、数は少ないとは思いますが外国人の子どももいるので、日本語学校等の支援を含め、何らかの記載があっても良いと思う。 | 17 |
| 8 | ニートや引きこもりの人がいる家庭では、本人を含め、その親も自分たちが引きこもりの状態にあるということを認識していない人が多いように感じる。そのために、なかなか支援が届かない状況にある。 | 18 |

第2回策定部会（11月13日）における意見

| No. | 発言要旨 | 掲載ページ |
|-----|---|-------|
| 1 | 例えば秋田市内など、バスの路線が充実していて公共交通機関を使って移動できる地域であればよいが、車でなければ移動が困難な地域では、移動の自由もままならない。妊娠中の女性はどこに移動するにしても、車の運転は大変。地域一体となった支援を検討してほしい。 | 2～3 |
| 2 | 秋田県では産科や産婦人科が減少傾向にあり、産科がない地域に住む妊産婦は、病院に行くまでに1～2時間かかることもある。人口減少が進んでおり、子育てや出産がしやすい社会になればよいと思うので、ぜひサポートも検討してほしい | 4～5 |
| 3 | 今年度中に、県内全ての小中学校において、児童生徒に一人一台の端末が配付される予定とのことだが、その対応に学校側がついていけるのか疑問がある。 | 6 |
| 4 | 思春期の施策7③「インターネットセーフティの推進」について、子供が被害者になる視点で書かれているが、子どもが加害者になる場合も多々ある。インターネット上においてもお互いの人権を尊重し合う、ルールを守るなどの取組も加えてほしい。 | 8 |
| 5 | 県内の高校とオンラインで面接などのやり取りをする際、学校の教職員の対応が追いついてないのではないかと感じることが多い。児童生徒のみならず、教職員の能力強化が必要と思う。 | 9 |
| 6 | 小学生の朝食の摂取率が年々落ちている。保護者の意識改革が必要だが、一方で、保護者任せではない、県独自の取組もあればとも思う。 | 10～11 |
| 7 | 全国と比較して、秋田県の子どもは海外旅行をした経験が最も少ないとの統計がある。海外旅行に行ったからそれで世界を知れるというわけではないが、他の地域との交流や価値観が違う人達との交流によって、秋田県をもっと好きになってもらうことができるのではないかな。 | 13 |
| 8 | このプランの実施期間は令和6年度までとなっているが、各種の施策を実施するに当たり、新型コロナウイルスの影響がいつまで続くのかということにも考慮が必要。 | 14 |